

2023年度卒業・修了 留学生の就職率等

卒業・修了者数 (A)	就職希望者数 (B)	就職者数 (C)	その他	就職率 (%) (C) ÷ (B)
10	6	5	5	83%

※2023年度卒業・修了者（学部・大学院の合計）の就職率等を掲載しています。

※学部・大学院の正規生であり、在留資格「留学」のみを掲載しています。

※日本国内での就職者のみを掲載しています。

※その他では、日本国内での進学、起業、母国への帰国・他国への留学等の人数を示しています。

※外国人学生を対象にした就職アンケートにおいて、日本国内での就職者を把握し、

希望者にメールによる情報提供を行っています。

※就職先は以下のとおりです。

三井E&S

空港ターミナルサービス株式会社

株式会社アジルコア

株式会社アリン

ウェルシア薬局

※進学先は以下のとおりです。

Sidney University

Yonsei University

氏名（イニシャル）：Y・T（2024年3月卒業）

出身国：中国

内定先業種：機械(東証プライム上場)

就職活動を始めた頃、私は将来に対する不安や期待に包まれていました。しかし、その中で自らの興味やスキル、そして将来の展望を整理し、明確なキャリアの方向性を見つける過程が、私にとっての出発点でした。就職活動の中では、必ず内定をいただくことはありません。連続の挑戦だからこそ、私にとっての成長の源でした。例えば、エントリーシートや履歴書は何度も修正し、面接は何度も練習することが最も重要なことです。

失敗や落選の瞬間はつらいものでしたが、それらを振り返り、自分の強みや弱みを理解し、向上していくことで、より一層の自己成長が実現しました。幸運にも、多くの企業から内定をいただくことができました。これは、面接や選考の段階で積み重ねてきた努力と、自らを深く知ることから生まれたものでした。

ただし、内定を得るだけでなく、それぞれの企業が自分にとって最良の選択なのかを見極める過程が更なる挑戦でした。内定を手に入れた瞬間が、逆に最も難しい選択を迫られる瞬間でした。給与や福利厚生だけでなく、企業の文化や風土、将来の展望など、様々な要因を考慮しました。自分のキャリアプランに最も合致し、個人としての成長が期待できる場所を見つけるために、時間をかけた検討が必要でした。

成功は努力と決断の連続から生まれるものであると、改めて実感しました。模索と失敗が交錯する日々もあったが、最終的には自分の目指す未来に近づく結果となりました。努力し続けることが、良い結果を手に入れる鍵であると確信しています。

最終的な選択をする際には、自分自身が本当に求めているものにフォーカスしました。将来的なキャリアの展望や、その企業での成長の見込みが、私にとって重要な要素でした。また、同じくらい大切なのは、その企業との相性や文化が自分に合っているかどうかです。これらの要素を総合的に考慮し、納得のいく選択をすることができました。

後輩の皆さんへのメッセージとして、就職活動には時間的な余裕が必要です。特に留学生にとっては、情報収集が一層重要です。キャリアセンターでは様々な情報や求人情報が提供されていますので、迷った時はぜひ一度相談してみてください。私自身は就職活動を少し遅めに始めたため、焦りも感じましたが、キャリアセンターでの相談を通じて、自分の進むべき方向が明確になりました。就職活動はできるだけ早く始めることが重要ですが、それ以上に焦らず、慎重に進んでください。

氏名（イニシャル）：L・J（2023年3月卒業）

出身国：中国

内定先業種：食料品(東証スタンダード上場)

幼少の頃から日本の漫画やアニメなどに親しんでいたことから、生活や文化について関心を持っており、現地で実際に体験してみたいと考えていました。

渡日後、日本語学校での初歩からの勉強とともに、大学進学のための学習を開始しましたが、外国での生活であり、色々と大変なことや辛いことも多くありました。

しかし、これらの経験によって、諦めずに粘り強く努力すること・辛いことにも忍耐して取り組むことの大切さを学ぶことができたと考えています。

獨協大学に入学した年の終わりには、コロナ禍によってオンラインによる受講や行動制限を余儀なくされたため、交友関係・行動範囲はそれほど多くなかったのですが、深く付き合える友人関係をつくることができました。

留学生ということもあり、学業・生活などで戸惑う部分もありましたが、これらを話し合い、協力し合うことで当時の多く困難を乗り越えました。彼らと喜びなどを共有し、ともに努力したことは就職活動の支えとなりました。

就職活動に関しては、日本での就業を目標としていたため、早期の行動を心がけました。

日本での就職活動には、学年・時期ごとに取り組むべきスケジュールがあるため、この流れをつかむことが大切だと感じています。

特に後輩の皆さんには、2年次からインターンシップに参加し、希望する業界・職種を早い段階から体験することを勧めます。

留学生は就職までには時間的な余裕があると考えてしまう傾向にあり、その結果、遅めのスタートとなってしまうのは残念だと考えているためです。

獨協大学のキャリアセンターが実施する就職ガイダンスに積極的に参加することで、就職マナーを身に付けるとともに、履歴書・エントリーシートの書き方、自己分析および業界研究の方法などを学ぶように心がけました。

各種テストや面接などの対策をしつつ、相談を重ねることで自分らしい履歴書、エントリーシートを完成できたことは良い思い出になっています。これらの取り組みの結果、4年次の前半に内定をいただくことができました。

就職活動には、多くの辛いことや挫折もありますが、これらの経験や失敗から学びつつ、最終的に自分を成長させていくことが重要なのではないかと考えています。

後輩の皆さんにも、獨協大学のキャリアセンターが提供する取り組みに早い時期から参加してもらい、失敗を恐れずに意欲的に行動してほしいと思っています。